平成３１年度小平市立小平第一中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

**１　調査目的・対象**

**こ学習に円滑に取り組むことができるための知識や、実生活において活用できるになっていることが望ましい知識・技能が身に付いていることをことを確認し、今後の学習に役立てるための調査です。**

２　調査内容

**（１）教科に関する調査**

中学校においては第２学年までに習得し、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題しています。

**（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

　記述問題で得点の低いところは、文章を書く力の不足というより語彙力が不足していることが原因と考えられる。今後はより思考を深め、豊富な語彙を使って文章を書く指導を提示していく。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では全国・都の平均を上回っており、学習が定着していると考えられる。特に記述の日常生活で応用すべき力は全国の平均を8％以上上回っており、日常生活の中で役立てていることがわかる。

学校で取り組む具体的な改善策

漢字や知識・技能等、覚えなければならないことは繰り返し行う復習を通して習得できるように指導する。「書くこと」では、筋道を立てて論理的に表現させる指導や、自分の意見をまとめて発表させる指導を行う。

【数学】　　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

関数における正答率をより一層伸ばすために、生徒が関数領域に興味を持つような教材の工夫、グラフを利用した問題への対応力が課題である。

また見方や考え方の正答率が５０％をきっているので、授業で自分の考えを互いに説明し合うなどの話し合い活動を増やしていく。

全ての領域において全国及び東京都の平均正答率をやや下回っている。計算、図形の証明の分野は全国及び都の平均よりやや上回っているが、関数領域において正答率がやや低い。また評価の観点別に見ても全ての観点において全国及び東京都の平均とほぼ同じである。問題形式ごとに見ると、記述式の無解答が全国に比べてやや下回っている。

学校で取り組む具体的な改善策

比例・反比例、一次関数、二乗に比例する関数などの関数領域の授業では、教科書のみに留まらずグラフの応用問題の量を増やしていく必要がある。

1問１答のような技能だけに留まらず、多様な考え方ができる具体的な事象を用いた課題を提示し、互いの考え方を伝え合う活動を授業に取り入れる。

　【英語】　　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

自分に関することのみならず、さらに資料を読み取り活用して、理論的に口頭でさらに記述で解答する活動を意識的に組み込むようにすることが必要である。語彙力の向上、文章を読む経験を多くさせることが必要である。

聞くこと、書くことについては都の平均を１ポイント下回り、全国平均よりも２～３ポイント上回っている。読むことについては都の平均を４ポイント、全国平均を１ポイント下回っている。読解力の低さが目に付く結果であった。問題形式では記述式を苦手としている。

学校で取り組む具体的な改善策

内容を広げながらして表現３文、４文にする活動を定着させてはいるが、自分に関すること、経験したことがテーマになっていることが多い。興味をもたせながら、資料を理解し活用して、３文、４文にする活動へと広げることが必要である。口頭での活動を意識的に書く活動にまで高める。語彙力を高めるため、語数を少なくしたスモールステップのスペコンを行うことも必要である。

【質問紙】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　課題

・学習した内容についての正確な理解と定着が必要。曖昧な理解のまま３年生まで進級してしまい、思ったように学力が伸びない生徒がいることが考えられる。

・一昨年の人権尊重教育推進校の研究で生徒一人一人のよさを認め、自分や友達のよさを認める生徒の育成を図ってきている。２年前は一定の成果が見られたものの、定着しきれていなかったことは課題である。

・学習の面では、国数英ともその教科が好き、内容がよくわかるという回答が都、国よりも多い。一方で「わかるまで教えてくれている」という実感が相対的に低いことから、「わかったつもり」でいる生徒が一定数いることがうかがえる。

・「自分にはよいところがある」「先生はあなたのよいところを認めている」がやや低く、自己肯定感に低い層が４分の１程度いることがわかる。

学校等で取り組む具体的な改善策

・学習面については、多くの生徒が前向きな気持ちで取り組んでいることはわかったが、そのことが確実な理解の実感に結び付いていない。各教科指導において、スモールステップで理解を確認しながら学習を進めていくなど、生徒の「わかった」という実感と実際の理解や定着に齟齬がでないような、細かな指導を継続していく。

・一昨年の人尊校の研究で取り組んだように、「一人一人のよさ」を認める場面を意図的に設定するような指導を今一度確認し、継続していく。教員が生徒に対し、肯定的な言葉がけを心がけるよう、全校で確認、徹底する。